

## ■特集

# 図書館この30年

—学びとくつろぎの空間—

現在の図書館が建ったのは1981年、大学の創立15周年記念事業として建設されました。延床面積 7,583平方メートル、鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）3階建。当時の蔵書数は約15万冊でしたが、札幌大学の将来の発展を見越して、収蔵能力65万冊、座席数600席という北海道内私立大学では最大規模の図書館でした。また、快適な学習環境を目指して、二人掛けのゆったりした読書机や軽く丈夫な椅子は、書架とともに木目調に統一し、床には絨毯を敷き詰め、窓ガラスには熱線吸収ガラスを使用、内側のブラインドとともに直射日光が入らないように考慮しました。さらに、学習に集中しやすいように、閲覧室の北側には一人用キャレルを83席設置しました。

今では当たり前になっていますが当時採用された画期的な設備といえば、全館空調設備です。道内の図書館では書庫を含めた全館の空調設備がある図書館はまだ稀な時期でしたが、旧図書館（2号館地階、現埋蔵文化財展示室）では冬は結露、夏には本のカビが発生し、毎夏閲覧室に本を並べて日干し（曝書）していたため、新図書館建設を機に資料の保存管理の改善を図ったものです。また、旧図書館では不心得な学生が本を無断で持ち出して、不明となる本が相当数あったため、図書館入り口にブック・ディテクション・システム（BDS）を設置しました。

竣工時には相当ゆりのあった書庫でしたが、学部増設や個人文庫の増加などにより蔵書は急増し、1990年代には書庫増設が必要になり、1997年、6号館新築の際に書庫を増設して延床面積8,717平方メートル、収蔵能力は約80万冊の



▲2階 蔵書検索コーナーとメインカウンター  
吹き抜けの天窓から柔らかな日差しが降り注ぐ蔵書検索コーナーとメインカウンターは、利用者の動線の中心にあります。

現在の図書館規模になりました。その際に、専用の空調設備のある貴重書書庫とマイクロ資料書庫を特別に整備しました。また、蔵書の増加にともない、全蔵書に比して学生が書架で直接手に取ることのできる図書が少なくなった（開架率が低下した）ため、書庫を学生に開放するオープンアクセス（全接架）方式に変更しました。

メディアの多様化にともない、2002年には、DVDやCDを視聴するAVコーナー、CD-ROMやオンラインのデータベースを検索できる情報検索コーナーを移設増設し、学生等の持ち込みパソコンをインターネットにつなげる学内LANにも対応しました。

施設と蔵書の充実とともに利用が増加し、30年間に図書館の入館者は延べ385万人、貸出冊数は129万冊になります。また、図書館の市民開放を行い、学外入館者数は延べ4万4千人、学外者貸出冊数は6万9千冊になります。



▲2階 メインフロア

2階入口を入ると、蔵書検索コーナー、第2開架閲覧室、参考図書閲覧室、3階吹き抜けが一度に見通せる開放的な空間が広がります。